

キングス・カレッジ・ロンドン 留学報告書

第7号 2018年3・4月

2017-2018年度グローバル補助金奨学生 中谷菜美



■留学先

キングス・カレッジ・ロンドン
International Child Studies 修士課程

■スポンサークラブ

東京六本木ロータリークラブ

■ホストクラブ

エッジウェア・スタンモア
(Edgware and Stanmore) ロータリークラブ

目次

01. 履修内容・学校生活
02. ロータリークラブの方々との日々
03. 重点分野との関わり



3月、4月になるとイギリスの至る所で黄色の水仙が咲き乱れます。



5/19のヘンリー王子のロイヤルウェディングに向けて盛り上るイギリス。街中にこんなお面も…！

陽射しが気持ちの良い今日この頃ですが、ゴールデンウィークはゆっくり過ごされましたでしょうか。ロンドンもだいぶ過ごしやすくなりましたが、それでも寒暖差が激しく、10度を切る冬の日があり、27度を記録する夏日になったりします。少し戸惑いもしますが、これがロンドンならではの気候とのことで、数少ない晴れの日を最大限楽しもうとするイギリスの人たちを見ていると、陽の光に改めて感謝する気持ちが湧いてきます。大学院も授業が全て終わり、エッセイやテスト期間に入っています。それでは、3、4月の報告をさせていただきます。

01. 履修内容・学校生活

子どもの保護の実現には包括的な支援が必要

私が一番心待ちにしていた、子どもの保護の授業が始まりました。身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、ネグレクトのそれぞれの虐待の現状や子どもに及ぼす影響、予防・対応方法、代替ケアなどを中心に、子ども保護に関わる分野について学びました。これまで、子どもの権利、子どもの健康と発達などの視点を学んだ上で子どもの保護を学ぶと、子どもが守られ最大限の力を発揮できるよう発達していくには、それら全ての要素が必要なのだということが実感でき、これまでの学びが繋がってきている感覚です。

若年層の妊娠と児童婚の問題

3月に行ったプレゼンテーションとエッセイでは、それぞれ若年層の妊娠と、児童婚の問題を取り扱いました。この2つのテーマは似ていますが、前者は先進国を含むより多くの国で課題となっており、後者は南アジアやアフリカなどの国で対策が急がれています。若年層の妊娠について学び印象的だったのは、例えば学生の妊娠や、シングルマザーに対して否定的な社会の風潮が彼らをさらに孤立化させリスクを高めているとの主張でした。イギリスでは、妊娠した学生が支援を受け、子どもを育てながら通学できる仕組みなどがあ

る程度整っていますが、日本では退学を余儀なくされるケースが多く起こっています。若年層の妊娠は出産に伴うリスクが高かったり、望まない妊娠の場合は虐待につながることもあったりするため防ぐことが大切ですが、妊娠した若い学生を、社会が非行、自己責任として責めず、サポートしていくことが大切だと感じました。

一步で、児童婚についても、若くして結婚することによる出産に伴うリスク、年の離れた配偶者との不平等な関係による暴力、教育機会を奪うなど多くの理由から、子どもの権利条約上禁止されていますが、多くの途上国で根強く残っています。国際機関や NGO、政府機関による取り組みの結果、特に南アジアの児童婚の数は減少傾向にある一方で、アフリカの児童婚は対策が遅れており喫緊の課題となっています。対策において最も重要だと感じた点は、結婚が文化的にもつ意味合いを理解し、根本原因に対処することなくして削減することは難しいという点です。貧困から抜け出す唯一の手段が結婚である場合や、若いうちに結婚することが子どもの幸せであると信じる親や社会がある場合など、多くの背景があります。また、子どもだけに啓発を行っても、親や地域の理解がなければ、逆に結婚を拒んだ子どもが危険な立場にさらされることもあります。それぞれの文化・社会背景を理解した上で、包括的なアプローチが不可欠であることを学びました。

02. ロータリークラブの方々との日々

トゥッティング・ロータリークラブで2回目の卓話

3月5日には、トゥッティング(Tooting)ロータリークラブにて卓話をさせていただきました。南ロンドンにあるクラブで、小規模かつ男性会員のみとのことで、地域によって様々なクラブがあることを実感しました。とても温かく迎えてくださり、アットホームな空間でお話しさせていただくことができました。



トゥッティング(Tooting)ロータリークラブの皆さんと。



3月28日には、カウンセラーのフランさんが昨年通っていた、オックスフォード大学の生涯学習コースの修了式に参加させていただきました。1年間で多くの課題をこなしながら学ぶ本格的なコースで考古学を専攻されていたそうです。修了式で様々な方が意欲的に学ばれている姿を見て、いくつになっても学び続ける熱意と、それができる環境が整っていることに感銘を受けました。また、修了式の合間には、ジン、ウォッカ、ウイスキーの醸造所ツアーにも連れて行っていただき、地元の出来たてのジンなどを試飲しました。これまでジンとウォッカの違いもわからなかつた私ですが、香りの良いジンの魅力に触れ、一つ好きなものが増えました。

写真(上):修了証書を受け取るフランさん(中央)

写真(左下):初めての醸造所での説明は興味深かったです
写真(右下):醸造所にてフランさんご夫妻と

母と妹を囲んで優雅なアフタヌーンティーを

4月のイースター休暇には、母と妹がロンドンに遊びにきてくれました。フランさんご夫妻にぜひお会いしたいとの母たちの希望もありお話をしたところ、アフタヌーンティーをご一緒にしていただけました。英語があまり話せない母でしたが、フランさんご夫妻がゆっくりお話ししてください、母も妹もとても楽しい時間を過ごせました。私にとっても初めての本格アフタヌーンティーで、とても贅沢な経験となりました。



美術館の中にある見晴らしの良いカフェにて



真剣にクイズを解く参加者の皆さん

4月22日には、ホストクラブのエッジウェア・スタンモアロータリークラブの毎年恒例のファンドレイジング・イベントのクイズ大会に参加しました。クイズはイギリスでとても盛んで、パブなどでもクイズ大会が行われていることは知っていたものの参加するのは初めてでした。参加者は、6人程度のグループに分かれ、各グループには支援団体が割り当てられ、各グループの参加費がその団体に寄付される仕組みとのこと。10問x8ラウンドで、英語のことわざから時事問題、雑学まで幅広い問題が出されます。参加者の皆さんのがんばりにかける本気度と、知識の豊富さに驚かされました。私はなかなか貢献できませんでしたが、なんと私のチームが優勝を勝ち取る結果になりました。イギリス文化をまた一つ知ることができ、興味深い体験となりました。



フランさんとご友人に誕生日をお祝いいただきました

4月25日の私の誕生日には、フランさんがお祝いの夕食に連れ出してくれました。素敵なフレンチビストロにて美味しい食事とワインでお祝いしていただきました。いつも気にかけてください、本当にありがとうございます。



人権映画祭にて

03. 重点分野との関わり

ロンドンで開催された人権映画祭にて、『The Long Seasons』という、シリアから逃れレバノンの難民キャンプで暮らす人々の姿を追ったドキュメンタリーを鑑賞しました。ある一家の日常生活に密着した作品でしたが、子どもへの体罰が日常的に行われている様子や、紛争の困難さを乗り越えるために二人目の妻となった女性の葛藤が描かれていた点がとても印象的でした。紛争や避難生活の影響でストレスが増大することが家族間の不和や暴力につながるケースは授業でも学んでいたため、映像を通してより紛争が家族や個人の日々の生活に与える影響について想像できるようになりました。また、紛争下であっても、避難生活の中であっても、そこにはやはり子どもがいて、親がいて、家族がいて、地域があるということを実感し、そういった中でも家族や地域が助け合い、少しでも前向きに生活できるような支援を行っていきたいとの思いを新たにしました。今後は、修士論文の執筆が活動の中心となります。現在インタビュー先などの調整中ですが、次号では修士論文のテーマの詳細をお伝えさせていただきます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。